



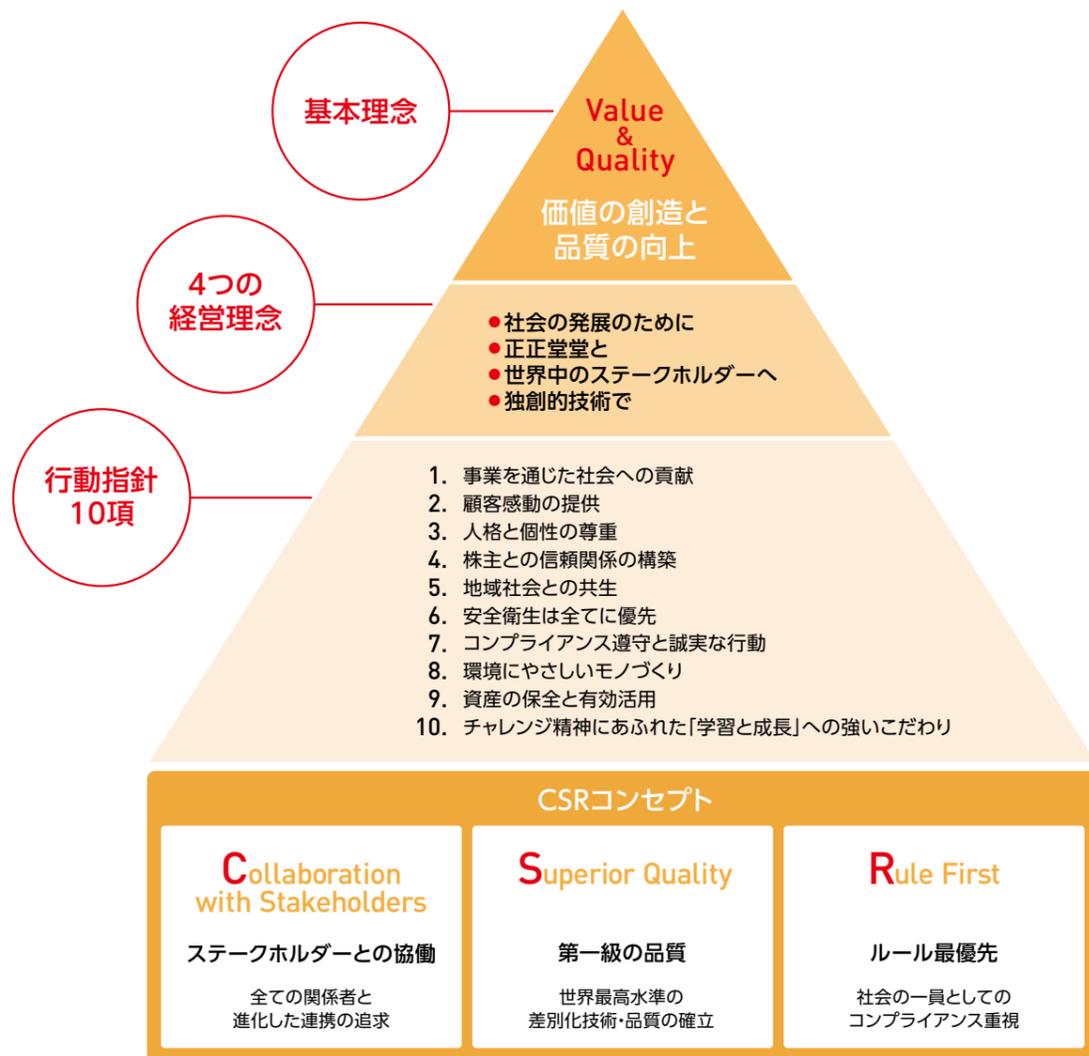
VALQUA GROUP

# Sustainability Report 2020



# THE VALQUA WAY

バルカーグループの企業理念「THE VALQUA WAY」は、社名の由来であり基本理念でもある「Value & Quality」、それをさらに社員が理解し実践しやすくした「4つの経営理念」、そして「行動指針10項」で構成されています。この深い理解と実践こそが、当社グループのCSRの基盤となっています。また、2007年から「THE VALQUA WAY」を基盤に3つのCSRコンセプトのもと、さまざまな社会課題の解決に向けたより実践的な活動を行っています。



2020年からレポート名称を  
**バルカーグループ  
サステナビリティレポート**  
に変更しました。

## 編集方針

本レポートは、バルカーグループの持続的成長に向けた基本的な考えと、CSR活動の重要課題に沿った取り組みをステークホルダーの皆さまにお伝えするため、年1回発行しています。一部データはWebサイトのみで開示しています。それぞれ掲載予定先となるURLを記載しています。

## 報告対象期間

2019年4月1日～2020年3月31日  
報告の一部に上記対象期間前後の内容を含みます。なお、体制図、方針、基準などは、2020年6月現在のものです。

## 対象範囲

株式会社バルカーおよびその連結子会社19社  
(障がい者雇用率、女性管理職比率はバルカー単体の数値としています)

## 発行時期

2020年7月発行(前回発行2019年9月)

## 報告媒体

冊子・PDF版	重点的な取り組みを年次レポートとしてまとめています。 [CSR情報] <a href="http://www.valqua.co.jp/social/">http://www.valqua.co.jp/social/</a>
Web版	Webサイトには最新情報・追加情報を網羅的に掲載し、随時更新しています。 [技術情報][IR情報][会社情報]など <a href="http://www.valqua.co.jp/">http://www.valqua.co.jp/</a>

## CONTENTS

企業理念	02
目次・編集方針	03
トップメッセージ	04
バルカーと社会との関わり	06
特集1 人材ダイバーシティの推進 バルカーベトナムと共に 成長するローカル人材	08
特集2 H&S企業への取り組み 水素エネルギー実用化への ボトルネックを解消する	10
CSRマネジメント	12
<b>コーポレートガバナンス</b>	
企業理念の浸透	13
コーポレートガバナンスの強化	14
グループグローバルな活動の推進	15
ステークホルダーとの対話	15
<b>サプライチェーンマネジメント</b>	
CSR調達	16
<b>コンプライアンス</b>	
汚職・贈収賄の防止	17
環境関連法令の遵守	18
法令等の遵守	19
<b>環境</b>	
環境負荷物質の漏出防止と低減	20
事業上の環境負荷物質の低減	21
<b>安全衛生</b>	
労働安全衛生	22
<b>人材・人権</b>	
人材の多様性確保(人材育成)	23
人権の尊重	24
<b>顧客満足</b>	
品質の向上と顧客の安全・安心	25
<b>コミュニティ</b>	
スポーツ振興支援・地域社会との共生	26
会社概要・拠点図	27

TOP MESSAGE

# 「未来と未知に挑む チャレンジングな企業」を目指し

## 人類の豊かさと 地球環境に貢献していきます。



バルカーグループ代表  
株式会社バルカー 代表取締役会長 CEO

龍澤利一

### 新型コロナウイルス禍の大激変に挑む

2020年の年初から新型コロナウイルスの感染が急速に拡大し、世界中で多数の犠牲者を出す未曾有の事態へ発展しました。今なお終息しない新型コロナウイルスの感染によって、亡くなられた多くの皆さまのご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆さまに心からお悔やみを申し上げます。また、医療の現場で昼夜問わず懸命に、感染者の治療と社会を支えておられる医療従事者の方々に心より感謝を申し上げます。

こうした不測の事態に世界が見舞われようとしていた今年1月、偶然にも期を同じくして、当社グループはこれまでの中期経営計画New Valqua Stage 8 (以下NV・S8) を1年前倒しで終了し、新中期経営計画New Frontier 2022(以下NF2022) を策定することを発表しました。これはNV・S8 期間中における事業環境の変化から、今後あらゆる環境の変化を乗り越え対応し得る新たな事業計画の必要性を認識したためです。

今年5月に発表したNF2022では、創業100周年を超えて次の時代にさらなる健全で持続的な成長を実現すること、また「創業100周年(2027年)のありたい企業像」では、人類の豊かさと地球環境に貢献するため「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」を目指すこととしました。

この半年で社会の様相は一変し、国際社会がこれまで経験したことのない困難な事態に直面していますが、この逆境に怯むことなく未来をしっかりと見据え、その先にある未知なるもの「New Frontierの開拓」に挑む所存です。

### SDGsを意識したCSR活動へ

バルカーグループは基本理念「Value&Quality(価値の創造と品質の向上)」のもと、社員が理解し実践する企業理念「THE VALQUA WAY」をCSRの基盤として、独自のCSRコンセプト「Collaboration with Stakeholders(ステークホルダーとの協働)」「Superior Quality(第一級の品質)」「Rule First(ルール最優先)」を全従業員が各自の担当業務の中で実践することをCSR活動としてきました。

今日、企業は短期的な利益を追求するだけでなく、長期的な視野に立った、非財務指標、つまりESGなどの向上が求められ、今後さらに地球環境や地域社会との共生なくしては企業の存続は許されるものではありません。企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、社員がより良き地球市民として「環境・社会・企業統治」への積極的な取り組みを実践することが、持続可能な社会への貢献につながると確信しており、これを創業100周年(2027年)の節目で、ありたい企業像として実現することを目指しています。

### SDGs(持続可能な開発目標)



国際社会の問題解決のため2030年までに達成すべき目標として、2015年に国連で採択された。17の目標と169のターゲットから成る。政府だけでなく市民や民間企業も実現への貢献を期待されている。

昨年度、SDGs(持続可能な開発目標)とGRIスタンダードをもとに、ステークホルダーと当社グループそれぞれの視点から、CSRの重要課題を整理し、新たに設定をしました。2030年を目標にしたSDGsは、国、組織、個人を超えた地球市民としての取り組みが求められる喫緊の課題であり、持続可能な社会へ貢献するための指標としてより一層重点を置いて活動を行ってまいります。

これまでの持続可能な社会の実現に貢献していくという思いをより一層強くし、これを意識した経営活動を行っていく決意を込めて本レポートのタイトルを「CSRレポート」から「バルカーグループサステナビリティレポート」へ変更しました。

### 世界を凌駕するバルカーパーソンの育成

社員のダイバーシティ化を進めてきたバルカーグループでは、日本、韓国、米国、中国、台湾、タイ、ベトナム、シンガポールの各拠点で多国籍の人材が活躍しています。

こうした人材が、最大限に能力を発揮できる環境づくりとして、「人格と個性の尊重」という行動指針に基づいて、「バルカーグループ人権基本方針」を制定し、国籍・性別・年齢・宗教などにとらわれない企業活動を推進してきました。

しかしながら、新型コロナウイルスのような未経験、かつ先が見通せない環境下では、もう一段違った要素が必要だと考えています。それが、逆境に怯むことなく、新たな価値を創造できる「チャンス」と捉え、チャレンジングでパイオニア精神にあふれる企業風土づくりです。今後、このマインドを持った人材が経営を担い、世界を凌駕するだけの真のグローバル人材として輩出できるよう、徹底した人材育成を進めてまいります。

新型コロナウイルス感染症が終息した後は、これまでとは違った社会の在り方が開け、より良い未来があると信じています。今後もシールエンジニアリングのパイオニアであることを誇りに、お客さまに新しい価値をお届けし、ステークホルダーの皆さまと共に持続可能な社会へ貢献できる企業として努力してまいります。

2020年6月

### 創業100周年(2027年)のありたい企業像

未来と未知に挑むチャレンジングな企業  
—人類の豊かさと地球環境に貢献するために—

1. あくなく成長戦略の追求とモニタリング
2. 成長をゆるぎないものにする経営基盤の強化
3. より良き地球市民として「環境・社会・企業統治」への積極的な取り組みを実践する

2027年3月期経営目標

- ・連結売上高 800億円
- ・連結 ROE15%

### 中期経営計画(NF2022)の基本方針

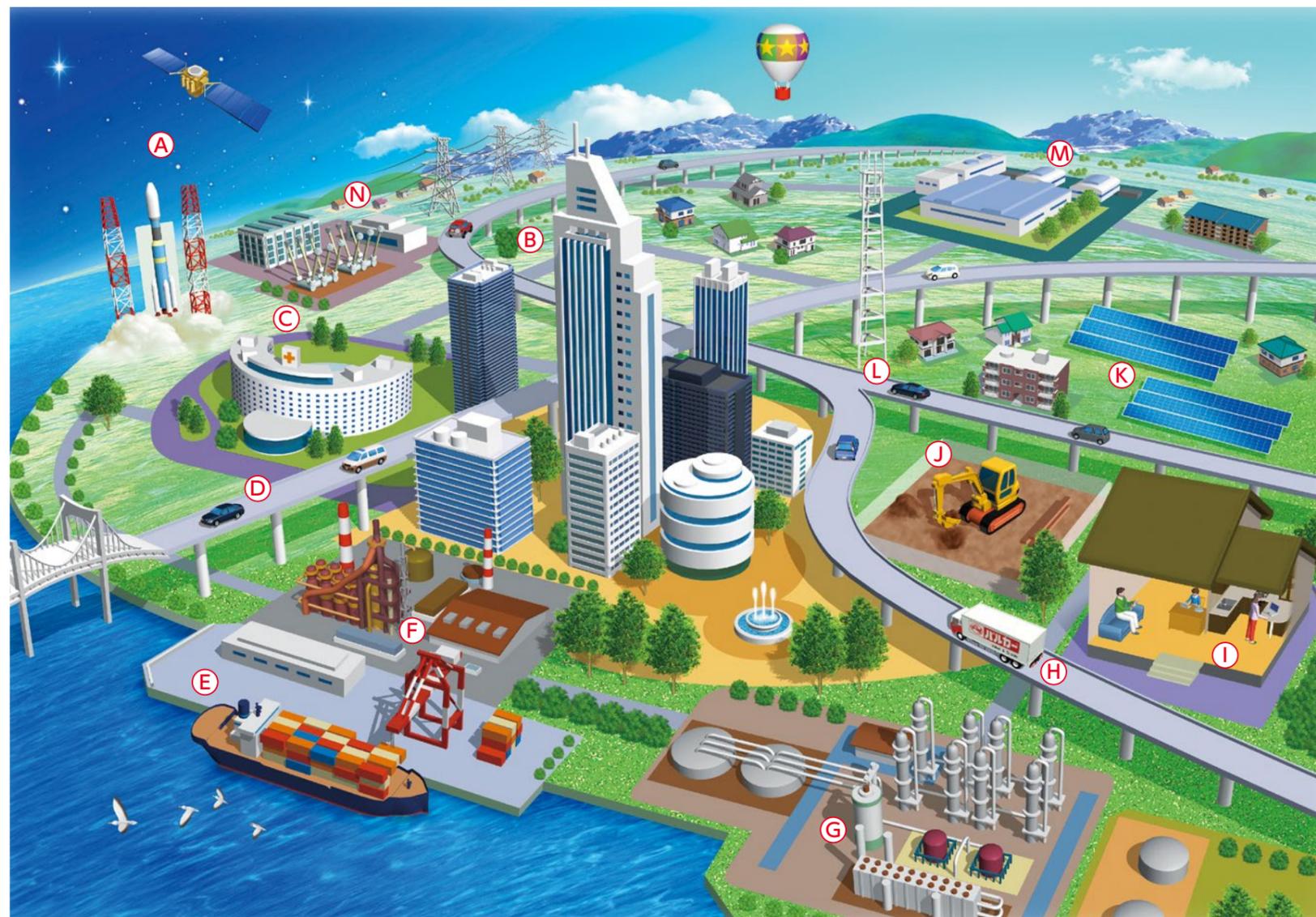
(New Frontier 2022)

創業100周年を超えて次の時代にさらなる健全で持続的な成長を実現するために「THE VALQUA WAY」のもとグループ丸となり大胆でダイナミックな事業基盤を再構築しよう

1. 選択と集中による既存事業領域の収益拡大と新規事業領域の獲得
2. オープンイノベーションの強力な実行(提携・M&A等の加速)
3. 大胆な投資(研究開発と人材育成)の加速
4. ITの徹底活用による全部門の効率化と顧客サービスの追求
5. グローバル人材の活性につながるダイナミックな施策の実行

# バルカーと社会との関わり

私たちの“製品&サービス”が  
さまざまなところで活躍しています



## A 宇宙ロケット・人工衛星



### メタル中空Oリング

宇宙空間においても漏れを防ぐほどの高機能ガスケットで、ロケットや人工衛星のほか、高温・高圧・高真空が要求される機器に使用されています。

## B 工場・オフィス



### LED照明

低消費電力で長寿命が特徴の製品です。豊富なラインナップで、幅広いニーズに対応可能であり、環境負荷の低減にも貢献しています。

## C 医療機関



### ふっ素樹脂切削テープ

ふっ素樹脂を高度な技術で切削した気密性・摺動性に優れた製品で、注射器用滑輪などに使用されています。

## D 自動車



### オートマチックトランスミッション(AT)用ガスケット

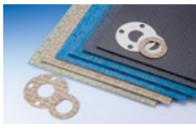
ATを制御する油圧コントロール装置(バルブボディ)に使用されるガスケットで、装置内の油をシールすることにより滑らかに応答性の良い変速を行うために使用されています。

## E 船舶



### グランドパッキング

作動軸周辺からの漏れを防ぐ製品で、流体の搬送や遮断といった機能を担う回転ポンプやバルブで、主に使われています。



### ジョイントシートガスケット

幅広い流体に対応する性能を持つ汎用ガスケットです。船舶・プラントなどのほか、住宅設備などあらゆるシーンで活躍しています。

## F 製鉄プラント

### 高機能シートガスケット

従来の製品の性能を大きく上回り、特に高温耐性が要求されるプラントで活躍しています。



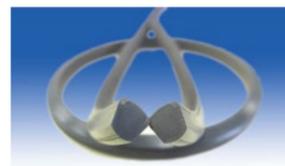
### うず巻形ガスケット

金属の補強をつけた製品で、高温・高圧力で運転されるプラントの安全操作を支えています。



### 回転軸シール(LFR SEAL®)

摺動性に優れたシール材で、各種生産用機器の回転および揺動部向けに開発されました。



### ふっ素樹脂ライニングボールバルブ

化学薬品に強いふっ素樹脂を接液部全面に採用し、幅広い種類の流体の制御に活躍しています。



## G 化学プラント

### ふっ素樹脂ライニング鋼管

化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を生かし、中を流れる流体の純粋性を保っています。



### ふっ素樹脂ガスケット

化学薬品に強い素材でできており、配管や機器のつなぎ目から薬液やガスが漏れるのを防いでいます。



## M 半導体工場

### 再生シリコンウエハー

半導体製造装置の動作チェックなどで使用されたシリコンウエハーを、独自のノウハウで研磨・洗浄し、新品同様に再生・提供することで、環境負荷低減に貢献しています。



### ふっ素樹脂ライニングタンク

ふっ素樹脂シートで内貼りした薬液用タンクで、半導体製造で使用される超高純度の薬液の貯蔵、搬送に欠かせない製品です。



### 高機能エラストマー

不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施した製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな環境を保っています。



### ボンデッドゲートシール

高機能エラストマーと金属の一体型シールです。高いシール性を持ち、シリコンウエハーの搬入口に用いられています。



## L 携帯電話基地局・自動車

### ふっ素樹脂基板

PTFEの優れた電気特性と耐候性を生かした基板材料がアンテナ機器周辺および自動運転にも使用され、安全・高速・大容量通信の実現に寄与しています。



## K 太陽光発電

### 太陽光発電事業

九州バルカーの敷地内に設置されたメガソーラーは、日々クリーンなエネルギーを生み出し、地球環境の保全と地域への貢献につなげています。



## J 建設機械

### Oリング

静的・動的シールの代表的な製品で、用途に応じたゴム材料を使用することにより幅広い産業からのニーズに対応しています。



### スラストプレート

ショベルカーなどのヒンジ可動部の隙間に組み込まれ、隙間調整、鳴き防止、カブリ防止などの役割を担っています。



## I ポータブルメディア

### ふっ素樹脂テープ

高い絶縁性と優れた加工性を持ち、通信機器の性能向上と小型化に貢献しています。



## H シールエンジニアリングサービス

### STC(シールトレーニングセンター)

バルカーの持つシールエンジニアリングテクノロジーをお客さまと共有し、プラントの安全な操業、機器の確実な作動につなげています。シール材の選定や適切な使用方法についての座学と、現場の配管フランジを模擬した実習を行う体験型研修施設で、人材育成の場を提供しています。

## H&S デモカー

新たに開発・取り扱いを開始した製品&サービスをデモ実演および体験を通じて全国のお客さまに紹介しています。

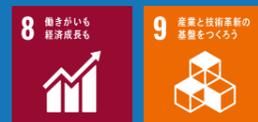




特集1

人材ダイバーシティの推進

>> 貢献するSDGs



# バルカーベトナムと共に成長するローカル人材

企業理念「THE VALQUA WAY」の中に、「社会の発展のために」「事業を通じた社会への貢献」があります。「THE VALQUA WAY」のもと、多様な人材と共に、日本・中国・韓国・台湾・米国・タイ・ベトナム・シンガポールに事業を展開する企業へと成長してきました。これからも、ローカル人材からの幹部など、真のグローバル人材を育成し「THE VALQUA WAY」の実践を通してSDGsにも貢献していきます。

(本稿は本人の日本語執筆に加筆・修正をしています)

## 経験を生かすため日系企業のバルカーに転職

1998年に私がハノイ国民経済大学を卒業したころは、ベトナム国内には外資系企業は非常に少なく、ほとんどがベトナム政府関係の企業でした。語学と事業経験を積むため1999年に日本へ渡り、自動車向けのプラスチック部品のメーカーに入社しました。そこで約9年間の勤務を経て日本の文化に深く感銘を受けた私は、帰国後は日系企業に勤めることを心に決め、2008年にベトナムへ帰国した際には、その思いで「バルカーベトナム」に入社し、会社の立ち上げに参加することができました。

入社時、射出成形の知識と経験がなかったため、自社製品であるガスケットやパッキンについてはほとんど無知の状態でした。約20名の新人従業員と共に、就業規則、製造手順書、検査基準などの整備、生産管理システムの導入などの会社の土台づくりに関わりながら、その後も製造課、品質管理課、管理課など幅広い職務を経験したことで、シール製品への理解と愛着、顧客の理解も深まり、ここまででも「チャレンジ精神に溢れた学習と成長」の機会を与えていただいたことに深く感謝しています。

入社当初のバルカーベトナムの様子



## 悩みぬいた支店長時代、企業理念が指針に

2014年の秋、瀧澤CEOのベトナム視察時、「君は将来、どんな人材になりたいの?」と質問を受け、「将来、バルカーベトナムの社長になりたいです。そのためには先ず、マネジメントを学習しなければならないと考えています。」と答えました。その後、2015年ハノイ支店設立時に、支店長に任命され、当時日本人以外で拠点長を任されたのは私を含めて2人だけだったので、驚きとともに大変嬉しく思いましたが、期待に応えられるのか、不安な気持ちの方が大きかったのを覚えています。

ハノイ支店立ち上げ後、責任者として孤独な日々を過ごす中で、従業員の反発、感情的な訴え、日系企業との文化・価値観の違いなど多くの問題に直面し、日本人とベトナム人の間で悩み・苦しみ、会社を辞めようかと思ったことも何度もありました。しかし「THE VALQUA WAY」のチャレンジ精神、瀧澤CEOの期待、自分は何のために入社したのかを、何度も何度も繰り返し考え、ここで辞めたら一生悔いが残ると思い、日本人とベトナム人の価値観の違いを埋めていくことが自分の役割であると考え直すことで、「THE VALQUA WAY」の理解を深める機会に繋がったと考えています。約3年間の支店業務を通じて、バル



ハノイ支店長時代

カーは利益だけを追求する企業ではなく、企業理念「THE VALQUA WAY」を全社員で共有し、自由に「WAY」を論じ、思いを馳せながら実現する基盤があることに改めて気づきました。

## 約3年ぶりの現場で新しい課題に気付く

2017年の夏、生産工場管理部への異動となり工場に戻りました。工場でのミッションは、工場管理、従業員のモチベーション、リスクマネジメントの強化でした。

工場を離れた約3年で以前の約2倍の規模に拡大していましたが、従業員の顔ぶれ、現場の雰囲気は悪化しており、キックバック・パワハラ・交通違反・賭け事などのコンプライアンスを含めた多くの問題が発生している状況でした。

これらは「THE VALQUA WAY」にまったく反することであり、このままではバルカーベトナムの持続的な成長どころか、存続自体が危うくなるとの危機感を強く持ち、バルカーベトナムの再生に向けた「再生委員会」を立ち上げ、「THE VALQUA WAY」の理解と浸透、コンプライアンス意識の向上、信賞必罰、報連相謝の徹底に加えて、社内行事への家族招待、女性の日のサプライズなど「ベトナムならでは」のモチベーション策を加えて現地幹部を巻き込み、必死に取り組みました。

## 原点に立ち返り、「夢」の実現にまた一歩近づく

改善の兆しが見えつつあった2018年の春、再び転職が訪れました。

瀧澤CEOから「グループ経営に関与していくためには、グループの理念・方針、ありたい姿を理解し、ロイヤルティを高め、子会社を経営していく強い意志と覚悟が必要である。」と教わり、約1年間海外研修を受けることになりました。

日本で生産管理・総務人事・経営管理等それぞれの部門がグループの理念・方針に沿った考え方・あるべき姿を目指し取り組む中に加わり、理解を深めました。後半は韓国で経営に対するマネジメント知識を深めました。

そこで、従業員が自ら考え、行動するためには、まずは自らの意識・行動改革が必要であり、次に直接影響を与える管理職の考え方・行動の変革が必要であると気づきました。



2019年研修後、瀧澤CEOと

## 海外研修後、バルカーベトナムの副社長に

2019年6月にバルカーベトナムの管理部長として帰国しました。その後、瀧澤CEO視察の際に研修成果を披露したところ、10月1日付でバルカーベトナムの副社長に任命されました。

これまで辛抱強く成長の機会を与えていただいた瀧澤CEOに感謝する一方で、副社長という責任、権限のあるポジションを務めることができるのかは大きな不安でしたが、激変する環境変化を素早く感知し柔軟に対応することができる組織へと変革するために、自らを信じ、これまでの経験を生かして現地の幹部育成と組織体制の強化を実現することで、経営基盤の強化を図ることが、会社への恩返しであると考えています。

創業100周年のバルカーグループのありたい姿「未来と未知に挑むチャレンジングな企業」にはまだまだ程遠いですが、瀧澤CEOの言われた「Whyの文化」、「信頼の文化」、「感情を大切にす文化」への改革に向けて、これからもバルカーベトナム従業員約300名の現地トップ(社長)を目指して努力していきます。

## バルカーベトナム

従業員数300人強。グループ子会社の中では最大の従業員数を誇るのがバルカーベトナムです。主にシール製品(ふっ素系高機能シート、うず巻形ガスケット、タフレタン・パッキン)を製造する生産会社であり、グループの販売会社を通して石油化学会社などに製品を提供しています。販売会社の側面も持ち、ハノイ支店はベトナム国内向けの販売窓口になっています。





特集2

H&S 企業への取り組み

>> 貢献するSDGs



H&S 企業

バルカーグループが目指す企業の在り方。製品 (H) の販売とサービス (S) を融合させた提案で、お客様の課題解決に貢献します。顕在化している課題だけでなく、お客様と共にアンメットニーズの掘り起こしを行い、独自の技術を製品とサービス両方に反映させることで、真のソリューション提供を達成するべく連携を図っています。

# 水素エネルギー実用化への ボトルネックを解消する

水素エネルギーの可能性が期待される一方、水素の高圧・低温貯蔵には技術面の課題が残されています。バルカーグループはこの課題を解決するシール材を開発し、水素社会実現に貢献します。

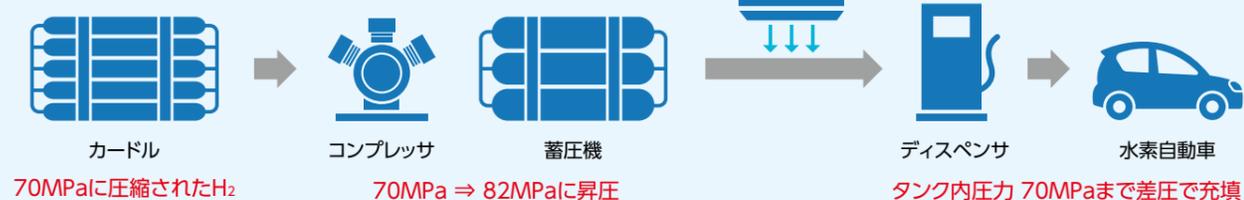
## 技術開発力がバルカーグループの強み

バルカーは、シールエンジニアリングのパイオニアとして、あらゆる産業を支えるシール製品およびその周辺製品を開発、提供しています。その開発精神は、社名由来の「VALUE & QUALITY」に根差したものです。失敗を恐れず、チャレンジを続ける情熱と、あらゆるところに存在する成功の芽を見逃さない風土があります。近年では、H&Sのコンセプトのもと、製品のメンテナンスに関わる技術訓練や、支援ツール、システムの提供など、ビジネスの拡張・変革に取り組んでいます。

バルカーグループの開発技術の根幹は、さまざまな製品群について幅広い視野を身に付けることにあります。開発者には高い専門性が不可欠ではありますが、一方でイノベーションを起こすには広い視野が必要です。顧客ニーズを先取りする柔軟な思考と、他の業界で用いられた技術を積極的に取り入れることで、バルカー独自の独自の技術を構築してまいりました。

### 高圧水素ガスシールの用途 (例)

高圧から常圧への繰り返し圧力変動に耐え、低温でも使用可能なシールが求められる。



## 「THE VALQUA WAY」が根差した製品開発

バルカーグループでは常に、お客さまに感動を提供することを目指して製品開発を行っております。そのためには、まずお客さまの安全・安心に最大限配慮し、その上で、ニーズに対応した開発や周辺構造の設計提案、評価方法の提案、検証提案など、お客さまと問題点を共有し、真因解決のために当社としてでき得る限りの検討を行います。

製品開発の領域では、部品としての製品性能向上に特化しがちでした。しかしながら、バルカーグループは決して、お客さま、製品開発および製造に携わる人々の安全を疎かにはせず、最大限配慮した上で、お客さまの製品やプロセスのパフォーマンスを最大化させることに貢献できるソリューション提供型の開発に努めております。より多くのソリューションを提案するため、産業技術総合研究所に代表される外部研究機関との技術提携によるグループ全体の開発技術の向上や、オープンイノベーションによるプラットフォームの積極的拡充により、グループ全体の開発技術力の向上に取り組んでおります。

その中でも、独自の技術であることを大事にしており、どなたにとっても only one であり、全てに満足していただけるものづくりに努めております。

## シール材の立場で水素社会実現を目指す

水素エネルギーへの転換は多くの環境問題を解決できるメリットがあり、実現が期待されています。一方で、高圧水素ガスを取り扱うインフラ整備や貯蔵・輸送などには問題点も多く、また、シール材においても技術的な課題があり、これまで順調に転換が進んでいるわけではありませんでした。

近年では、世界的に環境問題解決の動きが活発になっており、水素社会化によるCO<sub>2</sub>大幅削減等の改善効果が再認識されてきました。中国においても2019年6月に「中国水素エネルギー・燃料電池産業白書」が発表され、水素エネルギーおよび燃料電池のロードマップが打ち出されるなど、国際的に水素社会への流れが今後急激に進むと予想されます。

今後、水素社会への転換を促すためには、水素エネルギーを安全で効率よく運用する技術革新がますます重要になります。

そのためには、水素の高圧での貯蔵、低温での貯蔵の両面に対応できることが大切であり、安全に効率よく水素を利用する上で、シール材への期待は非常に高いものとなります。実際に低温での貯蔵では、低温環境で高圧の水素をシールすることが必須であり、金属製のシールではこれが実現されていましたが、繰り返し使用ができないなどの使い勝手の面で十分とは言えないと市場では考えられています。これに代わる使い勝手の良いシール材としてはゴム材料がありますが、超高圧かつ極低温環境で使用されるには過酷です。このように技術難易度は非常



開発材料の評価が行われたHyTReC (公益財団法人水素エネルギー製品研究試験センター)。第三者機関として、水素関連製品の性能や信頼性を評価する

に高いものでしたが、バルカーグループは、マイナス40°C以下の温度で十分なシール性能を有する製品開発に成功いたしました。これによりさまざまなお客さまの困り事を解決し、水素社会の実現に貢献できると期待しています。

## 持続可能な社会の実現に向けて

バルカーグループでは、SDGs (持続可能な開発目標) の実現に商品開発を通じて貢献してまいります。その取り組みの積み重ねが、バルカーの存在意義であり、持続的成長へとつながるものと確信しています。今回ご紹介した水素社会実現への貢献も、その一端であると位置付けております。クリーンエネルギーの実用化と普及には、世界中が協力しその技術力を結集して推進する必要があります。我々はその一翼を担う気概を持って、開発を進めております。

今後は社外の技術やリソースの積極的な活用に加え、広い視野と柔軟な思考、さらにバルカーの強みである独自の技術により、社会に対しての責任を果たしていく所存であります。

### お客様のコメント

イハラサイエンス株式会社 開発統轄室長 岩崎宏文様

一つのゴム材で、透過性の高い圧縮水素ガスを高圧下でしかも低温から高温までカバーできるシール材は大変魅力的です。継手に用いる際、取り扱いやすい上に金属同士のシールにはない好ましい特徴があります。バルカーと協働で研究・開発に携わることができ、これまでにないものを生み出したことを大変光栄に感じています。今後とも人々の暮らしの向上に共に貢献してまいります。



# CSR Management CSRマネジメント

## 持続可能な社会のために

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、たゆまぬ成長を目指して日々挑戦を続けていきます。そして、創業以来培った技術とサービスで社会とお客さまの課題解決につながる価値を創造・提供し続け、持続可能な社会に貢献するため、SDGsにより一層重点を置いて活動を行ってまいります。

## CSR推進体制

企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、2019年度より事業視点でCSR活動の連携強化を図るため、「CSR協議会」から「バルカーグループCSR推進委員会」へと変更しました。バルカーグループCSR推進委員会では、各部門で推進するCSR活動の進捗状況の報告や意見交換などを行い、グループ内の連携を強化しています。また、その結果を半期ごとに常務会で報告しています。



## CSR活動の重要課題

活動テーマ	何故・何のために	基本的な方針
01. 企業理念の浸透	企業理念「THE VALQUA WAY」を中心としたビジョナリー経営により健全で持続的な成長を目指すため	「THE VALQUA WAY」を日々の活動基盤とする
02. コーポレートガバナンスの強化	社会的責任を果たすための有効な意思決定の仕組みを持つことが重要であるため	「THE VALQUA WAY」のもと経営体制を構築し、その充実に努める
03. グループグローバルな活動の推進	グローバルな課題の解決には、グループが一体となって取り組む必要があるため	経営理念の「世界中のステークホルダーへ」、課題解決のために、バルカーグループ一体となって取り組む
04. ステークホルダーとの対話	対話を通じて相互理解を深め、共通の社会的課題の解決に取り組むため	CSRコンセプトの「ステークホルダーとの協働」を図り、グローバルな課題解決につなげる
05. CSR調達（紛争鉱物対応）	サプライチェーンのグローバル化に伴って複雑化した問題を解決するため	「調達基本方針」に基づいた業務を遂行する
06. 汚職・増収賄防止	贈収賄防止はもとより疑義が生じる行為も防止するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスマニュアル」に基づいた業務を遂行する
07. 環境関連法令の遵守	年々強化される環境汚染防止の法令違反による事業活動への影響を回避するため	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスマニュアル」に基づいた業務を遂行する
08. 法令等の遵守	社会的責任を果たし、期待に応えていくために、コンプライアンス経営の徹底を図る	行動指針の「コンプライアンス遵守と誠実な行動」のもと、「コンプライアンスマニュアル」に基づいた業務を遂行する
09. 環境負荷物質の漏出防止と低減	高度な技術を生かし、環境負荷物質低減につながる製品やサービスで低炭素社会の実現に貢献するため	CSRコンセプトの「第一級の品質」により、技術を向上させ、課題解決に資する製品や技術を提供する
10. 事業上の環境負荷物質の低減	ものづくり企業として社会的責任を果たすため、環境に与えるマイナスの影響を最小化する事業活動を行うため	行動指針の「資産の保全と有効活用」のもと、環境資源を考慮した活動を行う
11. 労働安全衛生	健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整え、従業員の幸福と事業の発展へつなげるため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、働きやすい環境をつくる
12. 人材の多様性確保（人材育成）	多様な人材が個性を生かし、自らの価値を高め成長できる環境を整備し健全で持続的な成長へつなげるため	一人ひとりが、行動指針の「チャレンジ精神にあふれた「学習と成長」への強いこだわり」のもと業務を実践する
13. 人権の尊重	行動指針の「人格と個性の尊重」のもと、啓発活動を通して人権への配慮を徹底する	「バルカーグループ人権基本方針」に沿った事業活動の遂行
14. 品質の向上と顧客の安全・安心	国内外のお客さまの安全面での課題を共に解決し、安心と満足を提供するため	行動指針の「安全衛生は全てに優先」のもと、自社だけではなく、国内外のお客さまの安全衛生も提供する
15. コミュニティ（スポーツ振興支援・地域社会との共生）	スポーツ振興支援や、地域に根差したCSR活動を通じて、安全安心で豊かな社会づくりに貢献するため	行動指針の「地域社会との共生」のもと、スポーツ振興支援や、地域に根差した社会貢献を行う



# コーポレートガバナンス

## 01 >> 企業理念の浸透

### 「THE VALQUA WAY」理解と実践活動

バルカーグループでは、グループ共通の企業理念「THE VALQUA WAY」を羅針盤として、日々の業務に取り組んでいます。グループ（8つの国と地域、バルカーおよび連結子会社19社）の全従業員一人ひとりが、変革や改善のために現状の仕事に対する問題意識を持ち、自らの言葉に落とし込んだ「MY VALQUA WAY」として理解を深め、実践につなげています。

また、この内容を共有する場として実践発表会を実施しています。「THE VALQUA WAY」を理解して、いかに業務で実践できたかを発表するものです。国別・階層別に予選会を行い、毎年1月21日の創業記念日には予選を勝ち抜いた代表者による全社大会を開催しており、2019年度で12回目の開催となりました。

また、2019年度は、当社グループの健全で持続的な成長を確実にものにするため、「THE VALQUA WAY 浸透推進委員会」を新設しました。CEO自らが委員長として、国内外の関係会社および各事業所を回り、国内外グループ従業員へ「THE VALQUA WAY」を深く浸透させることで、従業員一人ひとりの求心力を高め、あらゆる質を向上させるための基盤づくりに取り組んでいきます。



全社大会の発表の様子  
一般社員部門 第1席 バルカーベトナム  
Pham Thi Phuong Minh (ファム ティ フォン ミン) さん



全社大会 J職クラス部門、  
一般社員部門の受賞者4名と瀧澤 CEO、本坊社長



中国(上海)ブロック予選会の様子  
(プロジェクトターに向かい説明している様子)



幹部大会の発表の様子  
(バルカーコリアからテレビ会議で参加)  
第1席 バルカーコリア 南 千佳(ナム チョンガ) さん



## 02 >> コーポレートガバナンスの強化

### コーポレートガバナンス

#### ■ 基本的な考え方

バルカーグループは、企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、シールエンジニアリングのパイオニアとして、企業の持続的な成長による企業価値の向上を実現するため、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための経営体制を構築し、最良のコーポレートガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでいます。

#### ■ コーポレートガバナンスの状況

経営環境の急激な変化に迅速かつ確に対応するため、執行役員制度を導入し、取締役と執行役員の役割を分離した機動的なグループ経営体制を確立しています。また、公認会計士1名、弁護士1名を含む監査役が、取締役および執行役員の業務執行について監査を行うことで、経営に対する専門性の高い監視・監査機能を果たしています。

#### ■ 内部監査室

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価・提言を行っています。

### 内部統制システム

#### ■ 業務の透明性と信頼性を確保

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築することによって、内部統制システムの整備・推進に努めています。会社法などに基づく「内部統制システムに関する基本的な

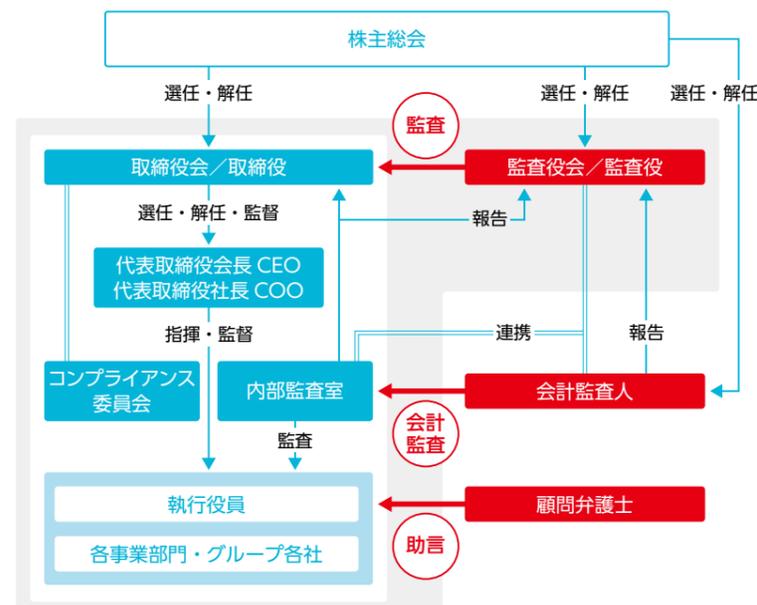
考え方」を取締役会で決議し、この内容を外部環境・内部環境の変化に応じて適宜見直しています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規定・規則や業務プロセスの整備・評価・改善を行っています。

その一環として、財務報告が有効である旨を記載した内部統制報告書を監査法人による適正意見を受けた上で開示しており、財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続しています。

#### ▼ 取締役会・監査役会の構成 (2020年6月20日現在)

取締役	7名 (男性5名、女性2名) うち社外取締役3名 (男性1名、女性2名)
監査役	3名 (男性3名) うち社外監査役2名 (男性2名)

#### ▼ コーポレートガバナンス体制図



(2020年6月20日現在)

2020年度活動方針、SHE活動のPDCA、SHE推進体制図

[http://www.valqua.co.jp/social/safety\\_health\\_environment/](http://www.valqua.co.jp/social/safety_health_environment/)

## 03 >> グループグローバルな活動の推進

### グループグローバルな活動の推進

#### ■ バルカーグループ一体となったCSR活動推進

バルカーグループは以前より、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、「H&S事業を軸とした活動」、「ボールルームダンス支援」、「地域社会に対する感謝の日」など、国内外のグループ会社が一括となって取り組みを行ってきました。

2019年度には、ステークホルダーの期待に応えるため、CSR推進体制を見直し「CSR協議会」から「バルカーグループCSR推進委員会」へ変更しました。「バルカーグループCSR推進委員会」では、新たに設定した重要課題に基づく活動を推進し、活動の強化を図っています。

また、国際基準の「GRIスタンダード」に基づいた報告へ変更するために、現状把握と整理を行い、「GRI内容索引」を当社ホームページに掲載する準備を進めています。

今後もさまざまなステークホルダーの期待にお応えできるよう、グループが一括となった活動を推進していきます。

## 04 >> ステークホルダーとの対話

### 株主とのかかわり

バルカーグループでは、適切・適正・適時な情報の開示を実施するとともに、株主・投資家など株式市場関係者との建設的な対話を積極的に行っています。そして、その双方向コミュニケーションから得られた意見などを適切に経営にフィードバックし、持続的な企業価値の向上の実現に活用しています。

### お客さまとのかかわり

バルカーグループは、H&S企業として、開発・

### SHE推進体制

#### ■ グループSHE委員会

バルカーグループでは、グループSHE委員会を組織し、SHE (安全、健康、環境保全) を一元的に管理しています。CEOを委員長、COOを副委員長とし委員長が任命する関連執行役員で構成されており、年1回以上開催することを規定しています。委員会では、SHE活動の「年度方針」「活動計画」の審議・承認、「実行状況」の確認を行い、グループ内への展開を図っています。

#### ■ SHEチーム

バルカーグループでは、活動推進のため、事業所もしくは会社単位にSHEチームを設置しています。関係会社の社長や事業所長が統括責任者となり、グループSHE委員会で承認された「年度方針」「活動計画」をブレイクダウンし、管理の実情、特有の事案、異なる法規制や国民性を考慮した自チームの「年度方針」「活動計画」を立案し実行しています。

調達・生産・営業のバリューチェーン全体で、お客さま視点に立った真のサービスソリューションを通して、お客さま価値の最大化の実現を目指しています。

### 従業員とのかかわり

バルカーグループでは、基本理念「THE VALQUA WAY」のもと、人権の尊重、ダイバーシティ推進、安全衛生の確保を基本として、個人の成長と従業員が最大限に能力を発揮できる職場環境作りに取り組んでいます。



# サプライチェーンマネジメント

## 05 >> CSR調達

### CSR調達の推進

#### ■ CSR調達ガイドライン

バルカーグループは、社会・環境・人権などにも配慮した調達活動に取り組むべく、2016年に「CSR調達ガイドライン」を制定しました。企業理念「THE VALQUA WAY」と「CSRコンセプト」に基づき、「調達基本方針」として5つの方針を掲げています。サプライチェーン全体でのリスクを最小化し、健全な調達活動を推進します。

#### ■ CSR調達アンケートの実施

サプライチェーン全体でのCSR調達を推進する活動の一つとして、各サプライヤーにおけるCSR推進状況を確認するための自己評価アンケートを実施しています。

2019年度は、主要な調達・購買先21社（21社の合計調達額は、当社調達総額の約8割を占める）を対象にアンケートを実施。アンケートは調達基本方針に沿った項目（8項目・20設問）とし、各サプライヤーにおける法令遵守、公正取引、環境への配慮、人権尊重、安全衛生などの取り組み状況を確認しました。アンケートの回答率は100%。CSRの重要性を共通認識とし、サプライヤーとの連携を強化しました。

実施したアンケートの回答をもとに点数化した結果、設定している目標値を上回っているサ

#### ▼ CSR調達アンケート回答結果

2019年度平均



※主要なサプライヤー（21社）を対象

プライヤーは95%、改善指導対象は1件でした。調査結果は各サプライヤーへフィードバックすることで、情報共有を図るとともにさらなる活動の推進を要請しています。目標値を下回ったサプライヤーは改善指導対象とし、取引を継続していくために個別に教育資料を提供するなど、CSR調達の実現に向けた継続的な支援・協働の取り組みを行っています。

今後、さらに活動を推進していくため、アンケート内容を精査するとともに、サプライヤーに対する個別の支援などを通じてCSR調達の定着を目指します。

### 紛争鉱物<sup>※</sup>への対応

バルカーグループは、紛争鉱物への対応を企業の責務と捉えて、CSR調達ガイドラインに対応方針を定め、調達品の調査をしています。今後もサプライヤーと連携して、人権侵害に及ぼさない取り組みを強化していきます。

調達基本方針、  
バルカーグループCSR調達基準  
<http://www.valqua.co.jp/social/csrprocurement/>

※紛争鉱物：紛争地域で人権侵害、不正などを行う武装グループの資金源となる鉱物

#### ▼ CSR調達アンケートの確認項目

項目	取り組み内容
CSR推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>違法・不正行為の早期発見のためのシステム構築</li> <li>法令・ルール遵守のための方針策定、従業員への教育</li> <li>CSRの推進体制</li> <li>自社のサプライヤーへの展開</li> </ul>
公正取引	<ul style="list-style-type: none"> <li>腐敗防止</li> <li>優越的地位の濫用禁止</li> </ul>
適切な輸出入	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸出入管理体制の構築と適切な輸出入</li> </ul>
情報・セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産の管理と尊重</li> <li>顧客や従業員などの個人情報、機密情報の管理</li> </ul>
紛争鉱物	<ul style="list-style-type: none"> <li>紛争鉱物への対応</li> </ul>
人権・労働	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重、人権侵害の防止</li> <li>非人道的な労働の禁止</li> <li>従業員の採用・配置・育成・評価・処遇について、差別禁止・従業員への教育</li> </ul>
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全・化学物質管理</li> <li>グリーン調達の推進</li> </ul>
安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員が健康で働ける職場環境の整備</li> <li>設備や機械装置の、安全対策・身体的負荷作業への配慮・環境配慮</li> <li>自然災害を含む非常事態への備蓄品確保</li> <li>緊急災害事故発生時の、社外関係者（周辺住民など）への連絡の事前取り決め</li> <li>大規模災害発生を想定したBCP対策、緊急時の体制</li> </ul>



# コンプライアンス

## 06 >> 汚職・贈収賄の防止

### リスクマネジメント

#### ■ 基本的な考え方

2020年度から新たにスタートした中期経営計画(NF2022)においては、選択と集中による既存事業の領域の収益拡大と新規事業領域の獲得により事業基盤を再構築していきます。また、企業への社会的な要請が高まる中、リスクマネジメントにおいてもその質が問われています。

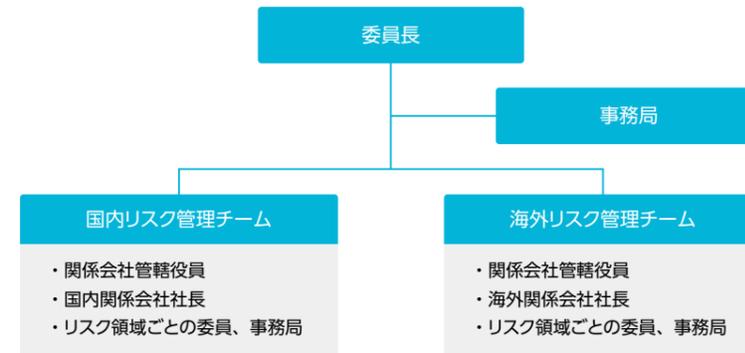
バルカーグループはステークホルダーとの信頼関係を維持し、事業を安定的に継続していくために、多様化するリスクとその影響を的確に把握し、コントロールできる管理体制を構築しています。

#### ■ リスク管理体制

バルカーグループは前中期経営計画(NV・S8)でも、リスクマネジメントの強化を図ってきました。その要となる「リスク管理委員会」は、国内外の事業環境の急激な変化と事業領域の拡大に伴って多様化するグループ経営上のリスクを一元管理するために設置されました。

リスク管理委員会が中心となって、国内外のグループ会社を取り巻く事業リスクを一元管理することで、バルカーグループを取り巻く環境の変化へ柔軟かつ確に対応していきます。

#### ▼ リスク管理体制



(2020年6月1日現在)

#### ■ 知的財産権管理

バルカーグループは、経営理念の一つに「独創的技術で」を掲げ、この独創的技術とサービスを融合させた「真のソリューション提供企業」への脱皮を目指しています。知的財産部では、企業活動で創出される価値を適切に保護し、お客さまの課題解決につながる製品やサービスの提供を支援しています。また、他者の知的財産権を尊重するために社内ルール・体制を整備し、自社製品やサービスが第三者の知的財産権を侵害しないよう、研究開発のさまざまな段階で調査を徹底しています。この調査は、知的財産部と研究開発部門の協力体制のもとグローバルに行うことで、国内のみならず海外においても、知的財産権の尊重を徹底しています。

#### ■ 国内外グループ会社における法令等の遵守

当社では、グループ全体の法令等の遵守を確実なものにするために、法律事務所、コンサルタント、法令情報提供サービス会社等の支援を受けながら、国内のみならず海外子会社に適用される関連法令を調査し、法令を遵守した業務の遂行を実践しています。国・地域ごとにその内容が大きく異なる法令等の遵守を徹底すべく、グループ全体で万全の態勢で臨んでいます。

### 腐敗防止

#### ■ 贈収賄防止の徹底

バルカーグループでは、全従業員に対して贈収賄防止の観点から周知を行うとともに、国内外の贈収賄規制に適切に対応するために、必要に応じて規定の見直しを行っております。また、国内・国外を問わずグループ全体の監査を実施し、贈収賄防止の徹底を図っております。

## 07 >> 環境関連法令の遵守

### 環境リスクマネジメント

#### ■ 活動体制

国内外生産関係会社ではISO14001システムによる環境活動を実施し、特に法令管理について運用レベル評価を実施。弱点を認識し、潜在リスクの顕在化とその予防処置を講じることにより、未然に違反を防止する体制を強化しています。

2019年度は、中国の事業所で、排水規制違反が発覚し、行政指導を受けましたが、現在は対策を行い改善しています。中国は近年環境規制が厳しくなり、行政の取り締まりも頻繁に行われるようになりました。生産関係会社全てに、法規制を遵守するための内部監査体制を構築し、違反を未然に防ぐ体制づくりを進めています。

また、全ての事業所で悪臭や騒音などによる近隣からの苦情発生はありませんでした。

世界的にリスク管理強化が求められている製

品含有化学物質については、chemSHERPA\*により川下への情報提供を適切に行っています。

#### ■ 各生産関係会社の法令遵守体制の整備・運用・監査の実施

国内生産関係会社では、ISO14001にて特定した法令一覧を共有し、月次で変化点を検証することで、各社の解釈間違い、見落とし防止を図る活動を継続しています。海外生産会社がそれぞれ特定した法令についても、月次の変化点について、グループ全体での共有を開始しました。

この法令一覧に基づく法令遵守内部監査体制の準備を各社で整え、2020年度は国内生産会社、法規制の変化が大きい中国生産会社から運用を開始します。

\* chemSHERPA：製品に含有される化学物質情報を川上企業から川下企業までサプライチェーン全体で適正に運用するため、経済産業省主導で2015年10月にリリースされたデータ作成支援ツール、および、情報伝達ファイルの名称

ハラスメント防止のための取り組み  
P24参照

## 08 >> 法令等の遵守

### コンプライアンス

#### ■ 基本的な考え方

バルカーグループにおける「コンプライアンス」とは、法令遵守にとどまりません。他の企業の模範となるべく積極的に法令や条例以上の企業倫理を遵守し、社会貢献や環境への配慮にまで踏み込んだ企業行動の実践によって、ステークホルダーの要求・信頼に応え、社会における信頼を勝ち得ていくことだと考えています。このコンプライアンスの重要性を理解し実践することが、バルカーグループの持続的な成長・発展を約束するものであると固く信じています。

#### ■ コンプライアンス・マニュアル

全グループ従業員の業務の指針とするため、コンプライアンス・マニュアルを2003年に制定し、6言語（日本語、英語、簡体字、韓国語、タイ語、ベトナム語）に翻訳して共有しています。

法令・環境保全・情報管理・反社会的勢力などの一般的事項をはじめ、営業活動・職場環

境・私的行為（インサイダー取引・利益相反行為）に関して遵守すべき事項を記載し、全社員が理解し、遵守すべきマニュアルとして活用しています。

#### ■ コンプライアンス体制

コンプライアンス委員会、コンプライアンス推進委員会を設置し、コンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー（CCO）」を中心に、グループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。

コンプライアンス遵守のためのグループ体制の強化とリーガルマインドの醸成を基本方針とし、2018年度からはCCO管下にコンプライアンス監督室およびコンプライアンス推進室を設置し、推進と監督の両輪から、健全で持続的な会社の成長基盤づくりに貢献する体制へ変更しました。

#### ■ 報告・相談・通報制度

グループ従業員が法令や社内規定・規則などに関わる報告・相談・通報ができる仕組みとして、外部・内部での複数の窓口を通じた報告・相談・通報制度を設けています。

これらの制度は、通常の指揮命令系統から独立して運営されているため、情報は秘匿され、報告・相談・通報したことによって従業員に不利益が課せられることがないように運用されています。なお、報告・相談・通報件数の実績は、2017年度は5件、2018年度は19件、2019年度は17件でした。引き続き本制度に基づいて、報告・相談・通報された件に対する適切な対応を行うとともに、制度の利用を促進していきます。

#### 外部窓口

- ① 社外弁護士
- ② 外部委託機関が運営する企業倫理ホットライン  
（日本語、英語、簡体字、繁体字、韓国語、タイ語、ベトナム語対応）内部窓口
- ③ 意見箱
- ④ CEOと直接コミュニケーションできるCEOダイレクトライン

### バルカーグループ環境理念

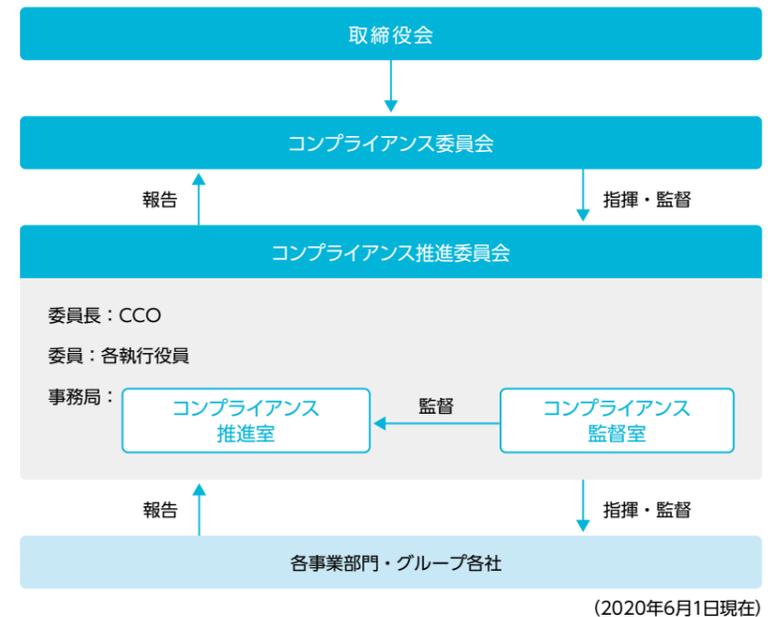
バルカーは環境理念に基づき地球環境の保全が人類共通の最重要テーマの一つであると認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に努め、企業の成長および持続可能な社会の形成を目指します

### バルカーグループ環境方針

環境理念に基づき、次の方針を定め、社員一人ひとりが良き地球市民としての行動をとり責任を果たしていきます

- 1 バルカーグループ全体の環境管理システムを構築し、維持向上に努め、運用を確実なものとする
- 2 国内外の法律、規則、条約、協定、などを遵守するとともに自主基準を設け一層の環境保全に努める
- 3 他産業および社会との連携を図り、環境に配慮した商品の創造およびサービスの提供に努める
- 4 事業活動の全ての領域で、3R (Reduce, Reuse, Recycle) の強力推進をもって、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減および汚染リスクの回避に努める
- 5 地域社会はもとより広く国際社会への環境情報を開示し、社会との連携と協力を努める
- 6 環境教育を通して、バルカーグループ全構成員の環境憲章の理解と、環境に関する意識向上を図る

#### ▼ コンプライアンス体制





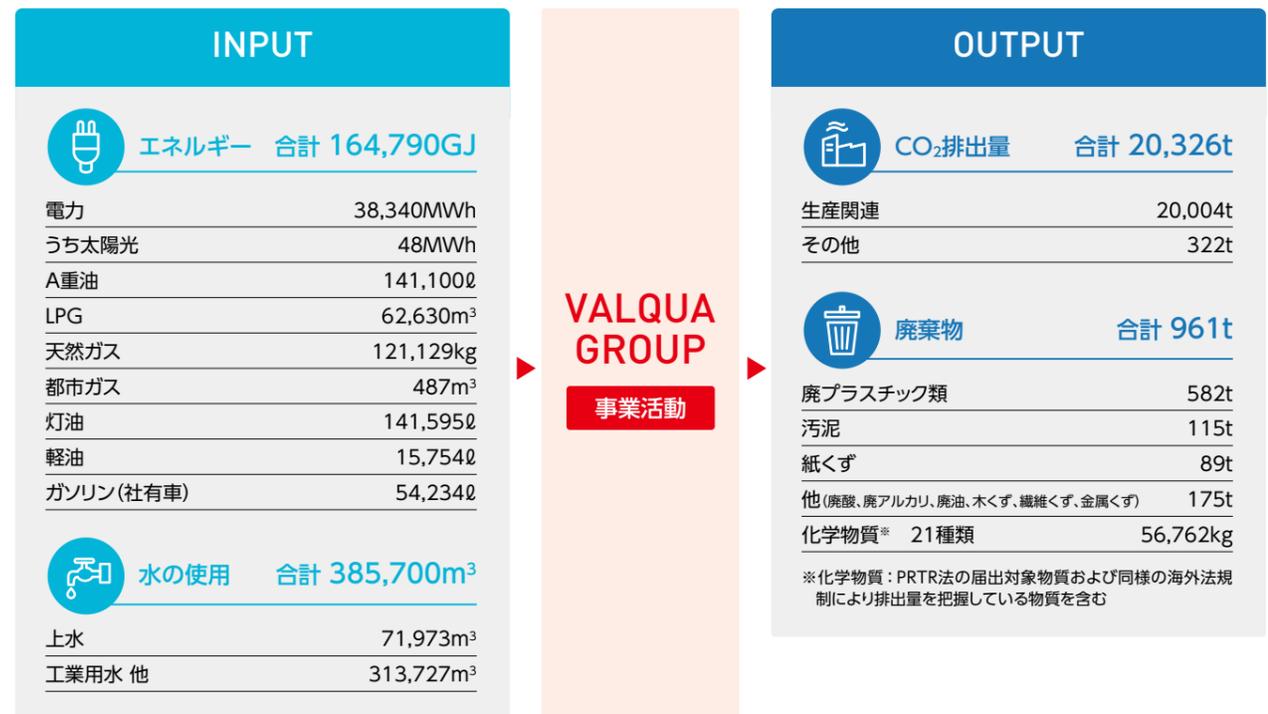
## 09 >> 環境負荷物質の漏出防止と低減

### 漏出防止と低減のための取り組み

#### ■ 活動推進のための新システム導入

ESGが重要視される中、主に環境関連データを、国内外のグループ会社から、正確かつ迅速に収集し一元管理するため、2019年度にCSR情報収集システムを導入しました。収集したデータを、GRIスタンダードに基づいて開示するよう整備を進めています。

#### ▼ マテリアルフロー



対象：バルカークループの国内外事業所（一部、地方営業所、駐在所、海外の販売会社など規模の小さい30拠点を除く）  
集計期間：2019年4月～2020年3月

### 2019年度事業活動に伴う環境負荷

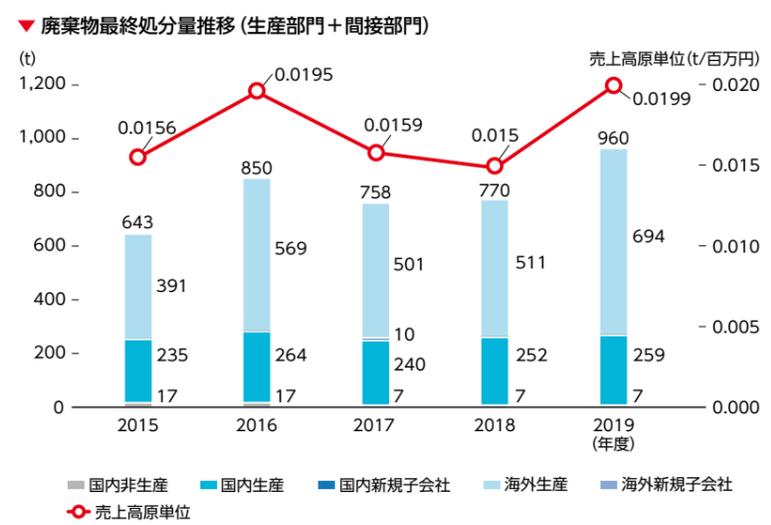
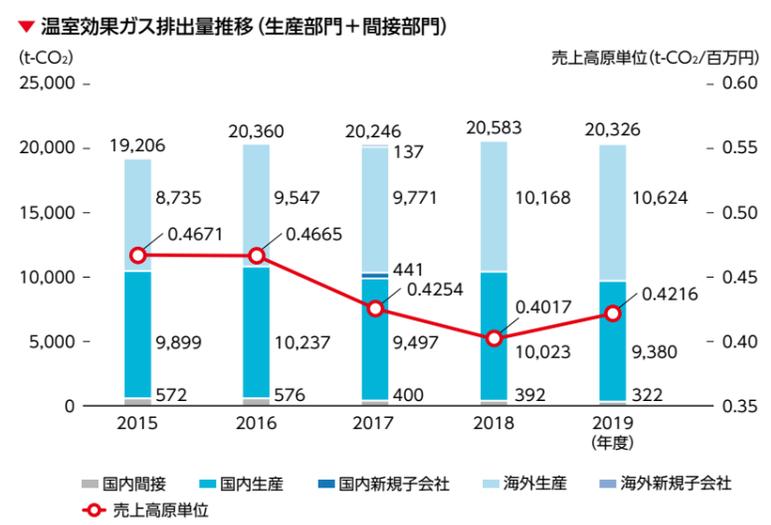
バルカークループでは事業活動におけるエネルギーや水などのINPUTや、エネルギー使用によるCO<sub>2</sub>の排出、生産工程から出る廃棄物などのOUTPUTを把握することで、環境負荷の全体像を捉えています。  
業績数値(売上高や生産会社の生産高)などと組み合わせて、目標設定や達成度の評価に活用しています。

## 10 >> 事業上の環境負荷物質の低減

### 主要な環境負荷の推移

温室効果ガス排出量・廃棄物最終処分量は、生産増の影響による増加を予測していましたが、さまざまな要因により生産減となりました。それぞれ原単位で1%以上の改善を目標とし、合理化・原価低減活動を推進しましたが、生産効率の影響等もあり、原単位で悪化する結果となりました。

スコープ3  
<http://www.valqua.co.jp/social/environment/>



#### ■ 温室効果ガス排出量(スコープ1・2)

2019年度は2018年度に比べて絶対量で257tの排出量減。内訳は生産減の影響で253t減、合理化・原価低減活動による温調管理の見直しや老朽化設備の更新の効果で216t削減しました。また、電力排出係数変更の影響が大きく919t減少しましたが、新たに導入した局所排気設備の稼働、受注減による効率悪化の影響で1,131t増加し、売上高原単位で5%増加となりました。

#### ■ 温室効果ガス排出量(スコープ3)

2014年度よりサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量の算定を始め、6年目となりました。スコープ3やその他環境に関するデータの詳細はホームページをご覧ください。

#### ■ 廃棄物最終処分量

2019年度は2018年度に比べて絶対量で190tの排出量増。内訳は生産減の影響で10t減、合理化・原価低減活動による不良改善や歩留まり向上の効果で15t削減しましたが、ライン増設等による工程変更に伴う試作、受注減による効率悪化の影響で215t増加した結果、売上高原単位で33%の増加となりました。

※温室効果ガス排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の各燃料および電力の排出係数を毎年再確認し、算定しています。スコープ1は、事業者自らによる温室効果ガス直接排出、スコープ2は他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、スコープ3は、スコープ1、2を除いて、原料調達から生産、販売、廃棄までにおける間接排出のことを指します。電力は、排出係数が明確でない海外拠点もあるため、一律に代替値を使用しています。(2015年度:0.000579t-CO<sub>2</sub>/kWh、2016年度:0.000587t-CO<sub>2</sub>/kWh、2017~2018年度:0.000512t-CO<sub>2</sub>/kWh、2019年度:0.000488t-CO<sub>2</sub>/kWh)

## 11 >> 労働安全衛生

### 安全衛生管理者の教育と訓練

#### ■ ①法令遵守管理、監視レベル向上による法令違反撲滅

外部専門家による各工場への安全衛生監査や安全研修を実施し、危険箇所を事前に発見できるスキルの向上に向けた活動を推進しています。

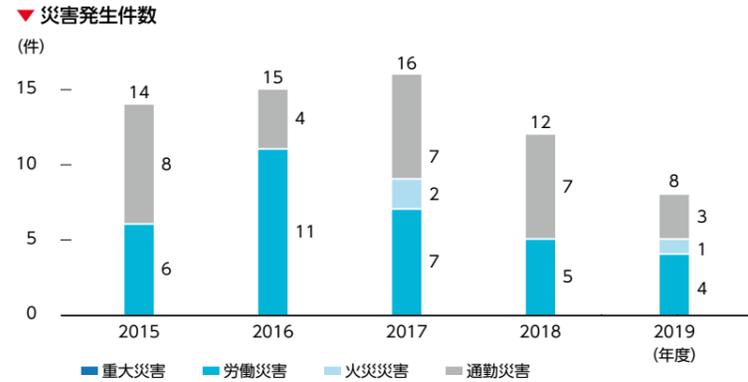
#### ■ ②ルール化と教育の徹底によるリスク排除

設備、作業、化学物質などのリスクアセスメントを推進し、定常・非定常作業のみならず生産拠点の移管に伴うリスクの排除に努めています。

### 安全衛生推進活動

#### ■ バルカーグループ安全衛生の日

バルカーグループでは、毎年5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、海外を含めたグループ全ての拠点で安全衛生大会を開催しています。



#### ■ 積極的な安全衛生推進活動

バルカーグループにおいてもビジネスのグローバル化が進む中、国ごとに異なる法規制や習慣などに伴うリスクが顕在化。こうした国ごとに異なる法規制や習慣に合った活動をきめ細かく、かつ遅滞なく行うことで、グループ理念の根幹である「安全衛生は全てに優先」を実現できると確信しています。また、健康経営の視点から従業員の健康づくりにも注力し、安全・衛生の両面から健康的で明るい職場づくりや産業医による保健指導を積極的に推進しています。

#### 心と体の健康管理

<http://www.valqua.co.jp/social/safety-health/environment/>

子育て・介護支援制度の充実  
[http://www.valqua.co.jp/social/human\\_resources/](http://www.valqua.co.jp/social/human_resources/)

## 12 >> 人材の多様性確保 (人材育成)

### 職場環境づくり・各種制度

#### ■ 多様な国籍を持つ社員が活躍できる環境づくり

バルカーグループでは、外国籍社員の採用やグループ会社間での人材交流を積極的に行っています。社員がグローバルに活躍できる環境づくりを推進するため、海外赴任予定者への赴任前研修や、日本で働く外国籍社員への日本語教育のサポートなどを実施。言語や文化の垣根を越えて協働する中で、多くの社員が新たな刺激や気付きを得ています。

#### 柔軟な働き方を支援する制度

- キャリアリターン制度
- 介護短時間勤務
- フレックスタイム制度 (コアタイム13:00~15:00)
- 育児休業 [2歳6カ月到達する日まで]
- 育児短時間勤務 [子どもが小学校3年生に達するまで]
- 育児のための有給特別休暇
- 子どものバースデー休暇
- 1時間単位の有給休暇取得制度
- 介護休業 [連続取得期間を最長3年に]
- 【新設】リモートワーク制度

(2020年6月1日現在)

#### ■ 目標管理と人事評価の仕組み

バルカーグループでは、従業員個人の目標は年度方針や部門ミッションをもとに設定され、「THE VALQUA WAY」と階層別の「求められる人材像」に則って日々の業務に取り組んでいます。

部署内の定期的な面談によりコミュニケーションを密にして、課題と改善点を明確化。より公正な人事評価制度を整備するとともに、バルカーグループの持続的成長に向けた人材育成につなげています。また、人事考課を行う管理職向けに、実践と組み合わせた研修も実施しています。

#### ■ イベント運営を通じた従業員教育

スポーツ支援活動の一環として行っている「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」には、100名を超える役員・従業員が主催組織と協働する形で大会運営に携わっています。これは企業理念「THE VALQUA WAY」を背景としたCSR活動の実践であると同時に、通常の業務とは全く違う世界での貴重な学びの場と考えています。また、このプロジェクトを通して従業員のさらなるホスピタリティ精神醸成を図っています。

#### ■ 次世代の経営幹部候補の育成

バルカーグループでは、選抜した中堅社員を対象とし、長期計画に基づいて経営幹部候補を育成しています。数年ごとにステップアップ・ステージを設定し、激変する次世代を担う経営幹部にふさわしいマインドとスキルを備えた人材育成を目指しています。

#### ■ 中国拠点における人材育成

バルカーグループは2007年、中国上海に中国人材開発センターを設立しました。中国上海はグループ最大の生産拠点でもあり、中国での現地化を加速させるべく、地域特性に合わせた教育体制を構築するのが狙いです。現地拠点の経営を担う人材育成のために「中国経営幹部研修」を継続的に実施し、知識や能力の「底上げ」とともに人材の「選抜」を行っています。2018年より「中国人材開発委員会」を設置して、人材開発に取り組む意識を醸成するとともに、現地で主体的に人材育成・教育を行える体制を整備しました。

#### ■ 社内語学講座

バルカーグループでは、従業員の語学力向上に取り組んでいます。社内講師による中国語・韓国語の語学講座があり、受講者は自分のレベルに合わせて入門コースや資格取得コースなどから選択できます。また、語学学習支援制度としてオンライン英会話などを設けています。

## 国際的な労働安全衛生マネジメントシステムISO45001を取得



2019年3月に後続の認証へ更新

#### ■ バルカーシンガポールでの活動

近年プラントで多発している事故を防ぐには、シール材の適切な選定と施工が必要不可欠です。バルカーグループは、お客さまのそうした課題を共に解決し、新たな企業価値を創造していくために当社のあらゆるリソースを駆使してH&S事業を展開しています。

その一環として、バルカーシンガポール (旧タイバルカーシンガポール支店) は労働安全衛生マネジメントシステム「OHSAS18001」を2016年に取得しました。現地企業と協業した取り組みを行うためです。2019年3月には後続となる「ISO45001」を取得し、常に最新のマネジメントシステムを構築してお客さまのプラントでの事故防止の取り組みを行っています。

また、バルカーグループの行動指針10項に「安全衛生は全てに優先」があります。今後も、職場の労働安全衛生のみならず、お客さまの労働安全衛生の実現に貢献してまいります。



## 13 >> 人権の尊重

### ■ 性別を問わず活躍できる環境づくり

性別に関係なく、多様な視点を取り入れることで、さらなるイノベーションの推進を図ります。特に、女性のキャリア開発と成長を支援するため、女性管理職比率の目標を定め、積極的な登用を行っています。

### ■ 障がい者雇用の推進

地域との共生を目指しバルカーグループでは、地元の特別支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れています。障がい者の方へ働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。

## 人権の尊重

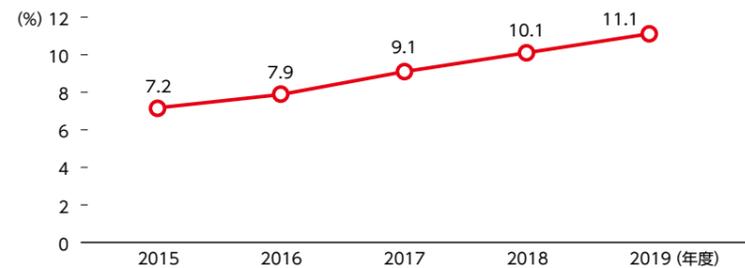
バルカーグループでは、2017年3月に「バルカーグループ人権基本方針」を策定しました。これは、国連グローバル・コンパクトを踏まえて検討されました。人権基本方針の周知や理解度の確認、ダイバーシティの進捗状況に関するアセスメントをグループ各社に対して実施しています。結果を分析し改善することで、人権に対する意識向上とダイバーシティのさらなる推進を図ります。

## ハラスメント防止のための取り組み

### ■ 社内の意識改革

職場における人権尊重を推進する上では、ハラスメントを防止する取り組みが欠かせません。そのため、継続的に取り組んでいるコンプライアンスセミナーにおいては、事例を用いた討議形式の研修や、職場における心得の再確認などについて、国内外の全拠点を巡回して啓発活動を進めています。

### ▼ 女性管理職比率 目標：2020年度までに10% 2027年度までに15%



### ▼ 障がい者雇用率 目標：法定雇用率以上



### ■ DVDを用いたハラスメント防止研修

ハラスメントは、本人に自覚がないまま行われている場合も少なくありません。バルカーグループでは、国内外グループの社員を対象とし、2018年度からハラスメント防止をテーマとしたDVD視聴研修を行っています。現在は日本語のみでの実施ですが、DVD視聴後は意見交換を通じて、自分の考えを話したり、他者の意見に耳を傾けたりすることで、自らの言動を省みる機会としています。また、視聴した感想などを全員から提出してもらい、個々の事業所の傾向からハラスメント防止につなげる取り組みも行っています。

### バルカーグループ人権基本方針

[http://www.valqua.co.jp/social/human\\_resources/](http://www.valqua.co.jp/social/human_resources/)



## 顧客満足

## 14 >> 品質の向上と顧客の安全・安心

品質方針、品質マネジメントシステム  
[http://www.valqua.co.jp/social/safety\\_quality/](http://www.valqua.co.jp/social/safety_quality/)

Seal Quick Searcher  
「Seal Quick Searcher」は、シール製品の選定や施工による漏えいトラブルを防ぐため、ご使用環境から推奨シール製品を検索、また選定したシール製品の締め付け力などを確認できるWebサイトです。  
<http://www.seal.valqua.co.jp/seal/>

現代ガスケット概論  
ガスケットとボルト締め、フランジ継手の技術的基礎をわかりやすく説明した業界初の「ガスケット解説書」  
<http://www.valqua.co.jp/technical/gasket-introduction/>

バルカー技術誌「バルカーテクノロジーニュース」  
<http://www.valqua.co.jp/tech/technical/>

### 品質保証体制と方針

バルカーグループでは、「グループ品質保証委員会」を組織し、グループ全体を統括するグローバル体制を構築しています。国内外の生産関係会社や販売関係会社を管轄する事業部・本部をはじめとして、研究開発や人材開発など品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

また、「品質方針」に基づいて、組織ならびに従業員一人ひとりが具体的な目標を掲げ、品質向上活動に取り組んでいます。その上で、関連法規制を遵守、お客さまの求めに合致した品質を担保し、安全な製品とサービスを提供しています。

### 顧客の安全のためのサービスの開発と普及を推進

バルカーグループでは、シール製品などの製造販売だけでなくプラントエンジニアリング関連企業様向けに、プラント事故の一因でもあるシール材の選定不良や施工不良による漏えい

トラブルを減らすため技能者の育成支援を行っています。

2014年にシール材の施工要領を学べる場として開設した「シールトレーニングセンター(STC)」を国内2カ所、海外5カ所(中国・韓国・台湾・タイ・ベトナム)に展開。その他、現地での出張講習、組み立て式でお客様が自社で体験できる設備などを提供しています。

### 評価技術

シール製品の使用環境は多様であり、全てのお客さまを対象に評価・検証を行うことは、現実的に困難でした。バルカーグループでは、こうした課題に対して、FEA(有限要素解析)を用いて使用環境をコンピューター上で再現・検証する次世代評価技術の開発に取り組んでいます。

この取り組みにより、これまで困難であった大口径装置、高温や高圧条件での検証が可能となり、漏えいや破壊などシール製品における不具合の原因究明や再発防止のための設計提案を行っています。今後もこの技術開発に積極的に取り組み、全てのお客さまの安全・安心に貢献していきます。

## バルカーシール講習会

バルカーグループは、化学工場などの安全操業対策として、中国石油・化学工業連合会と共に「バルカーシール講習会」を開催しています。2003年度から中国で毎年実施しており、2018年度に14回目を迎えました。2019年度は、残念ながら新型コロナウイルスの影響で開催中止となりましたが、例年100名を超える技術者が参加しています。工場などで使用されるシール材の正しい取り扱い方法、製品に関する技術講演などを通じて、安全操業を促進しています。



2018年度の講習風景



## 15 >> コミュニティ

### スポーツ振興支援

#### ■ 「ボールルームダンス」振興と感動体験

バルカーグループでは長年にわたり、人々の健康や生活を豊かにする「スポーツ」の振興支援に取り組んでいます。2014年からは世界92カ国・地域に競技団体があり、幅広い世代と障がい者に愛好される「ボールルームダンス」の普及発展を支援しています。

2019年は国内最高峰のプロダンス競技会「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」、

ジュニア・ユース世代の全国大会「小・中・高校生ボールルームダンス・全日本チャンピオンシップ」、視覚障がい者の全国大会「全日本ブラインドダンス選手権大会」などを支援しました。

中でも「バルカーカップ」では当社社員約100名がスタッフとして参加し、主催団体と協力して企画および運営を担うという踏み込んだ支援を行っています。これは企業理念「THE VALQUA WAY」を基盤としたCSR活動の実践であり、「事業を通じた社会への貢献」「顧客感動の提供」などの体験につながっています。

▼ 2019年度実績  
「ボールルームダンス」支援  
観戦応援、大会運営協力  
合計参加者数

285名



「全日本ブラインドダンス選手権大会」では視覚障がい者と健常者ペアが多数出場



延べ338組のジュニア選手が出場した「小・中・高校生全日本チャンピオンシップ」



国内外で評価が高まる「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」

#### ■ 日本ダンス界の発展に寄与

バルカーグループの6年間にわたるボールルームダンス支援が評価され、2019年9月に日本ダンス界の発展に最も貢献した人物として瀧澤利一CEOへ「インペリアルハイネス・プリンスミカサワード」の特別功労賞が授与されました。



特別功労賞のトロフィー

### 地域社会との共生

#### ■ 地域社会に対する感謝の日

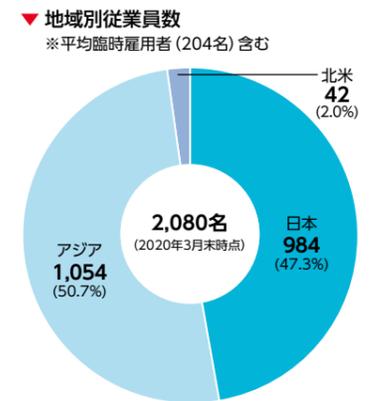
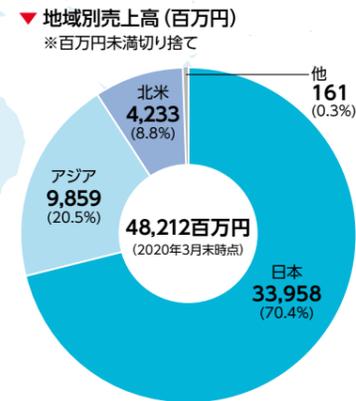
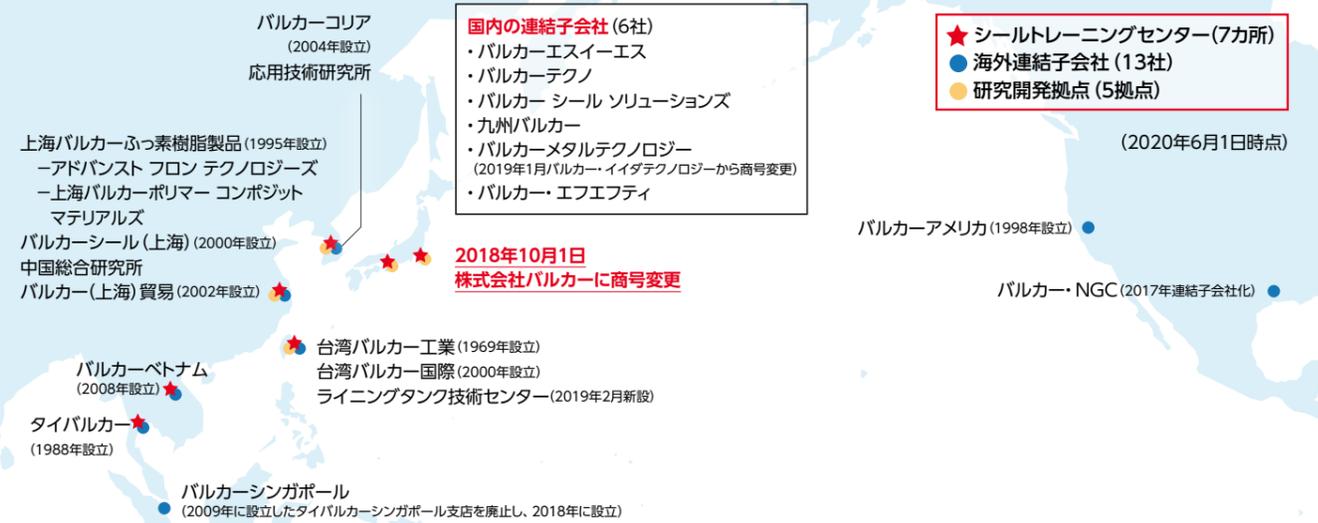
世界中の人々とより豊かな未来を築いていくために、私たちに何ができるのか。その答えの一つが、毎年行っている「地域社会に対する感謝の日」です。

世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・工場で、地域社会に根差したボランティア活動を実施。2019年度は世界46カ所、総勢1,508人の従業員と家族が参加して、海岸や道路清掃、花壇の花植え、養護施設支援のための募金活動などを行いました。

社会貢献団体の活動支援、  
難民支援  
[http://www.valqua.co.jp/social/action\\_program/](http://www.valqua.co.jp/social/action_program/)

## 真のグローバル企業を目指して 会社概要・拠点図

2018年10月1日、私たちは“第二の創業”の決意とともに、「株式会社バルカー」に商号変更。2027年には、創業100周年を迎えます。これからもステークホルダーの皆さまに寄り添い、期待にお応えできるよう、世界を舞台にチャレンジを続けます。



国別特許保有数、研究開発費については、別途WebサイトのCSRページ内へ掲載する予定です。  
<http://www.valqua.co.jp/social/>

#### 会社概要

### 株式会社バルカー

本社：〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

創業：昭和2年1月21日  
設立：昭和7年4月8日  
資本金：13,957百万円

上場証券取引所：東京証券取引所市場第一部  
従業員数：438名 (グループでは1,876名、2020年3月31日現在)  
事業内容：産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴムなど各種素材製品を設計、製造、加工および販売



## Value & Quality

### VALQUA GROUP

#### 表紙について

バルカーグループは、安全・安心・豊かさを顧客に提供するための事業やボールルームダンス支援などのCSR活動を通じて、全ての子どもたちが活躍できる安全で安心な「明るい未来づくり」に貢献したいという思いから、子どもたちの写真を表紙に使用しています。バルカーグループの従業員から公募した、従業員の子どもの笑顔で表紙を飾りました。

お問い合わせ先：株式会社バルカー

総務人事部 TEL 03-5434-7370 FAX 03-5436-0560

〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

<http://www.valqua.co.jp>

